

CASBEE®名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(第2版)2016年版、名古屋市長官庁環境政策推進部環境政策推進部マニュアル2016

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中村区則武一丁目プロジェクト	階数	地上10F
建設地	名古屋市中村区則武一丁目106,107	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	577 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年7月22日
敷地面積	569 m ²	作成者	
建築面積	473 m ²	確認日	2020年7月28日
延床面積	4,619 m ²	確認者	



さい

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.4 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 3.0		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.8
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.1	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 変形敷地形状を効率よく利用し、周辺環境に配慮した(交通量の多い表通り、静寂を求められる病院)建物計画(設備計画)としている。名古屋駅周辺にふさわしい賑わいと躍動感を表現しながら、快適なこれらの事務所ビルの構築を目指している。		
Q1 室内環境 周辺環境を鑑みた、遮音性の高い開口部計画と、事務所の静寂を高める界壁の遮音壁の採用。南東面の大きな開口部計画とし、開放的なインテリア空間を創出している。	Q2 サービス性能 使いやすいオフィス空間の為に、無柱空間、7,200モジュールベースの分割可能で空間の自由度を高めている。主要設備の修繕、更新のし易い計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 名古屋市環境整備地区のガイドラインに沿った、名古屋駅の賑わいを創出し、交通量の多い前面道路に対し、サービス機能を裏に配置計画でコンパクトにまとめた。
LR1 エネルギー 省エネの観点から、建物外皮の断熱性能を高め、快適な事務所ビルとする。	LR2 資源・マテリアル トイレ計画では、節水型の機器、及びセンサー給水の採用。照明も人感センサーとし、エネルギーの省力化を図る。又汚染物質を含まない材料を全面的に採用している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を一切使用しない、オール電化設備計画としている。テナント需要、及び敷地環境を鑑み、交通量抑制の駐車場計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

中村区則武一丁目プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.090779374	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009077937	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045389687	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。